

主体的に情報活用し、思考・創造・表現する子めざして

横浜市立大口台小学校 教諭 佐藤幸江

yukie-s@agate.plala.or.jp

キーワード：小学校、国語科、図画工作科、6年生、e-黒板、デジタル教科書、

1 はじめに

「教育の情報化」に関する政府の施策として、2005年の教室には「コンピュータ2台と周辺機器およびネットワークを設置」し、ITを活用した授業を行うこととなっている。文部科学省の調査では、年々そのような教室におけるIT環境は整いつつあり、ITを活用して授業できる教師も増えてきていることを示している。しかし、教育現場ではそれらが実感として感じられないでいる。つまり「どのように活用するか」という点において、まだまだ教室の手前で足踏みしているというのが現状であろう。この企画では、そのような現状を踏まえ、どの教室においても活用できる実践例を示している。

2 プロジェクトの概要

「e-黒板＝電子情報ボード」は、コンピュータを意識しないで、テレビなどと同じようにスイッチを入れるだけで手軽に活用できるイメージがある。デジタル教科書と組み合わせるなどして、活用事例を広めることによって、多くの教師にIT活用のきっかけとなるのではないかと考える。

本校では、昨年度より「e-黒板」を授業で活用している。その結果、子どもたちが主体的に情報を活用し、思考・創造・表現する力を育てるツールとして有効に働くということが見えてきた。今年度は、さらに授業実践を積み「どのような場面で、どのように活用することで、どのような力の伸びがみられたか」という教育効果を検証したいと考え、本研究に取り組んでいく。

2-1 国語科での活用 単元名：共に考えるために伝えよう『みんなで生きる町』

ここでは、ユニバーサルデザインという考え方に興味をもち、身の回りの施設や物を見つめ直し、自分たちの考えをまとめ、多くの読み手に伝わりやすい具体的な提案書を書くことを学習の目標とした。しかし、ユニバーサルデザインという考え方に馴染みが薄く、その説明文の読み取りの時間は2時間しか計画されていない。そこで、e-黒板を活用し、子どもたちの読み取りを確実にしたいと考えた。



写真1：教科書

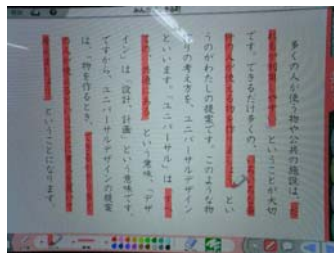


写真2：デジタル教科書

それぞれの読み取った内容が視覚的に分かり意味などを記述する学習カードから読みが確かなものとなったことが分かった。また、本文のそこに筆者の考えが散りばめられ、繰り返しユニバーサルデザインの大切さを訴えていることが確認され、子どもたちも関心をもち始めた。

2-2 図画工作科での活用 単元名：ゲルニカが伝えたいことは？

図画工作科での鑑賞の授業は、鑑賞対象を何にするかという点でなかなか難しく、実践例が少ない。

ここでは、社会科での戦争単元と関連化させ、ピカソのゲルニカを鑑賞した。以下のような環境を設定することで、子どもたちは、意欲をもって絵画鑑賞に取り組み、ゲルニカから様々な思いを受け取っていた。

黒板には、ゲルニカの半分をカラーコピーしたものを貼り、半分には子どもたちが感じたことを板書してある。



写真3：e-黒板を配した環境

e-黒板には、ゲルニカの画像やピカソやゲルニカの情報を提示し、自由に見ることができるようにした。

3 成果と課題

成果：国語では、子どもたちの読み取りが確実にになったり、話し合いが活発になったりという様子が確認された。図画工作科でも、e-黒板による視覚的情報が子どもたちの思考に効果が見られることが確認された。

課題：デジタルとアナログの環境をうまく活用する必要性が見えてきた。